

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和( 元 )年度
		AIロボット(音声読み上げ機能)、パワーポイントを使用した発表
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他( )
	単元・題材名	食の安全・自分の身近な食について調べよう
	授業の目標	自分の記述しやすい方法を選んで、自分の考えと友達のを共有する。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない ( 3 )年 ( 103 )人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input checked="" type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 人前で過度の不安がある。自分の調べた内容などを発表したいが、思い通りに話すことができなかつたり、失敗しなかつたりという理由から授業に参加できない。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援( <input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援( <input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援( <input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援( <input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 自分が調べた食に関する内容を発表する際に、一人で発表することへの不安が強かった。教師や友達のサポートを提案したが、自分だけ手伝ってもらうのは嫌だから発表しないと主張していた。自分ができない部分をAIロボットが代替することで自分で発表するという場を設定した。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	Microsoft Power Point(読み上げ機能) AIロボット(Sota)(ヴイストーン株式会社) 書画カメラ
授業展開	授業展開・支援の手立て	 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	発表方法について複数の方法を提示し、自分で発表方法を選択した。児童はすぐに発表したい内容をPowerPointのノートに入力した(ローマ字を学習後だったので、タイピングも可能であった)。その後、AIロボットに接続し、発表の練習を支援員と一対一で行った。教室へ戻り、他の児童に説明し、ロボットを支援員が操作して内容を伝えた。途中から教師の促しで、書画カメラを使って調べた内容を提示しながら発表した。また、途中AIロボットの操作がうまくいかなかった時や、他の児童から質問を受けたりした時に口頭で説明することができ、嬉しそうに話していた。「ロボットは自分の代わりだから、自分が発表したのと同じなのがいい」と嬉しそうに話していた。